

人のぬくもりと
ふれあいが奏でる躍動のまち
丹波高原文化の郷●京丹波

広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.74
12月号

2011年12月15日発行

命を吹き込む
伝統の技と心

特集 京丹波の心を伝える
「国民文化祭」と「食の祭典」



今月の表紙

国民文化祭の京丹波町主催事業として開催した「魅せる・人形芝居フェスティバル」。本町の和知人形浄瑠璃をはじめとして全国各地に息づく人形芝居が披露され、伝統の技と心で観客を魅了しました。(関連記事を2ページに掲載)

特集 京丹波の心を伝える

「国民文化祭」と「食の祭典」

京都府を舞台に開催された国内最大の文化イベント「第二十六回国民文化祭・京都二〇一一」。十月二十九日から十一月六日までの間、府内各地でさまざまなイベントが行われ、本町では「魅せる・人形芝居フェスティバル」伝えよう人形浄瑠璃のこころ」と「京丹波・食の祭典二〇一一」を十一月六日に実施しました。

今回の特集では、開催までの取り組み経過をはじめ、多くの人でにぎわった祭りの様子などをお伝えします。

二年間にわたる 国民文化祭の取り組み

本町では、平成二十一年七月六日に町長を会長とする「第二十六回国民文化祭京丹波町実行委員会」(委員十三人)を組織し、具体的な企画や実施方法などを審議する「同実行委員会」人形浄瑠璃の祭典」企画委員会(委員六人)を設置して本格的な取り組みを開始。事務局と委員会が連携して平成二十二年八月二日に「プレ事業」を開催したところ、観客席を埋め尽くす三百六十五人が来場し、本番に向けての大きな弾みとなりました。

本番までの約二年間、実行委員会は八回、企画委員会は七回の会合を重ね、静岡県(平成二十一年)と岡山県(平成二十二年)の国民文化祭を視察するなど、課題を一つひとつ解決しながら準備を進めてきました。一方、出演する和知人形浄瑠璃会や和知中学校、和知小学校人形浄瑠璃クラブは、定期的な練習に加えて国民文化祭に向けた特別練習に取り組むとともに、公民館などでの巡回公演をはじめ、和知人形浄瑠璃の魅



オープニングフェスティバルで勇壮な太鼓を響かせる和知太鼓保存会(国立京都国際会館・京都市)



舞台上で前原さんから舞台設営に関する説明を受ける瑞穂小の児童たち(和知ふれあいセンター・本庄)



和知人形浄瑠璃会のメンバーから人形の仕組みなどを教わる竹野小と下山小の児童たち

地域文化を伝えるために 小・中学生が体験事業に参加

国民文化祭の初日となる十月二十九日、国立京都

力を伝えるために町内外のイベントに積極的に出演。ほかにも、和知地区の有志でつくる「大空の会」(竹内透会長)が由良川上空に国民文化祭PR用の横断幕を掲げるなど、地域をあげて幅広い取り組みが展開されました。町としても、できるだけ多くの方に来場いただけるよう、地元の特産品や食文化を全国に向けて情報発信する「食の祭典」の同時開催に向けての取り組みをはじめ、西日本旅客鉄道株式会社に特急電車の和知駅停車に対する要望活動、のぼり旗の掲示、わちぐらウインドまでのシャトルバスや町営バスの臨時運行に向けた調整などに力を注ぎました。

国際会館では開会式・オープニングフェスティバルが盛大に開催され、第二部ライブステージにおいて和知太鼓保存会が「こころ」に響く和太鼓パフォーマンスを披露。本町では人形芝居フェスティバルに向け、十一月四日に舞台設営、翌五日にはリハーサルと出演団体の交流会を開催し、詳細を確認しながら最終調整を行いました。また、国民文化祭を契機に町内の子どもたちに人形芝居の魅力を知ってもらおうと、リハーサルに町内の小学生、本番当日に中学生が体験事業として参加。小学生たちは、舞台監督の前原さんから舞台設営に関する説明を受けたり、和知人形浄瑠璃会のメンバーから人形の動かし方を教わるなど、さまざまな観点から地域文化の素晴らしさを体験。本番当日に参加した中学生たちは、各地で息づく人形芝居の奥深さを肌で感じ取っていました。



「和知小学校人形浄瑠璃クラブ」「和知中学校」



NO.74 CONTENTS

- 2 【特集】京丹波の心を伝える 「国民文化祭」と「食の祭典」
- 8 3,240人のランナーが秋の丹波路を力走 「2011京都丹波ロードレース」
- 10 平成24年2月5日(日)は 京丹波町農業委員会委員一般選挙の投票日です
- 12 Dr's Message いきいき健康術
- 13 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2011
 - 姉妹都市交流のシンボル完成を祝う 一京丹波フレンドパーク除幕式
 - 災害時の被害軽減を目指して 一上乙見区を対象とした住民避難訓練
 - 三校が連携してウシの生態を学ぶ 一パートナーズスクール
 - 悪質商法への注意を促す啓発活動 一消費者被害見守りパレード
 - 命の尊さと人権の大切さを学ぶ 一人権の花運動
 - イチョウなど210本の苗木を植樹 一「みんなで創る水源の森」植樹祭
 - 丹波ひかり小の児童が京都縦貫道の工事現場を見学 一丹波トンネル工事見学会
 - 関西フィルハーモニー管弦楽団が和知中で公演 一次代を担う子どもの文化芸術体験事業
 - 瑞穂の里さらびぎの来場者が200万人を突破 一200万人突破感謝祭
 - コンクールで地元産品と地元産材をPR 一「おいしいお米コンテスト」と「もくもくコンクール」
- 16 シリーズ 季節の食材を使った お手軽料理レシピ

この日は、関係者とまゆまろが出迎える中、受付開始と同時に多くの人たちが会場に詰めかけ、開会を待たずして満席となるほどの盛況ぶり。実行委員会会長の寺尾町長が開会あいさつをしてオープニングを飾った後、司会のジェフ・バーランドさんが出演者へのインタビューを交えて演目や団体紹介をし、知立山車文楽保存会を皮切りに四団体が次々と出演。午前の部の最後には、和知人形浄瑠璃会と和知小学校人形浄瑠璃クラブが「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」を演じ、巧みな人形さばきと力強い語りを披露して会場を沸かせました。

あつぱれたんぼ写真コンテストの表彰式をはさんで午後の部が始まると、南あわじ市立南淡中学校郷土芸能部など五団体が地域の特徴を生かした人形芝居の素晴らしさを惜しみなく発揮して熱演。公演の締めくくりに、和知人形浄瑠璃会と和知中学校が地元で伝わる実話を演目にした「長老越節義之誉」を上演し、心を込めた演技と熟練の技の素晴らしさに観客席からは割れんばかりの拍手が送られました。

エンディングでは、実行委員会副会長の朝子教育長が開会あいさつを述べた後、人形芝居フェスティバルの成功を来年度の国民文化祭に引き継ぐために、実行委員会副会長の畠中副町長が開催地の徳島県へ向けた引継書「人形芝居の心の絆」を朗読。そして和知人形浄瑠璃会の大田喜好会長から徳島県の阿波木隅箱廻しを復活する会の中内正子代表に人形を介して引継書が手渡され、二年間をかけた取り組みに幕を閉じました。



三味線と語りを披露する和知中学生

ホークスベリー市からの訪問団員にインタビューするジェフさん

アリーナ前で来場者を出迎える関係者とまゆまろ

全国から集まった11団体が出演した「魅せる・人形芝居フェスティバル」。和知ふれあいセンターを舞台に、それぞれの地域で受け継がれてきた人形芝居が披露され、来場した多くの人たちを魅了しました。

「魅せる・人形芝居フェスティバル」

INTERVIEW

インタビュー



和知中学校
三味線担当
堀真優さん

緊張しましたが、めったにできない経験ができてよかったです。

三味線は、担当する四人の音色を合わせたうえで語りとも合わせる必要があるのでも難しいのですが、練習の甲斐があつて本番ではうまく弾くことができました。

見に来ていただいたみなさん、本当にありがとうございます。国民文化祭は終わりましたが、これからも練習に励みますので応援をお願いします。



和知小学校
人形浄瑠璃クラブ
人形遣い担当
堀清香さん

多くの人で緊張しましたが、練習成果を發揮して精一杯がんばりました。

終わった時は、練習どおりに人形を操ることができてホッとしたのと、うまくできて良かったと思えました。

本番当日は大勢の方々に見に来ていただきありがとうございます。大切な地域の伝統文化を受け継いでいけるよう、今後も和知人形浄瑠璃会のみなさんに教わりながら一生懸命練習に励みます。



「人形浄瑠璃の祭典」
企画委員会 委員長
おおた きよし
大田喜好さん

多くのみなさんのお力添えをいただき、素晴らしい祭典が開催できたことに感謝しています。

今回の共演を通じて、本町の一人遣い、阿波木隅箱廻しを復活する会のような語りながらの人形遣いなど、受け継がれてきた歴史による違いを知ることができ、多くのことを学ぶことができました。

また、他の地域の出演者からは、小・中学生と大人と一緒に演じる独特の構成は地域の良さが生かされ本場に素晴らしかったと聞いていますし、この取り組みが京丹波町ならではの世代を超えたつながりだと思っています。

国民文化祭を契機に、より一層、和知人形浄瑠璃が京丹波町の伝統芸能として発展するようがんばっていきますので、みなさんのご支援とご協力をよろしくお願いします。



「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」を演じる和知小学校人形浄瑠璃クラブ

「長老越節義之誉」を演じる和知人形浄瑠璃会



阿波木隅箱廻しを復活する会の中内代表に引継書を手渡す大田会長

「日高川入相花王・渡し場の段」を演じる南あわじ市立南淡中学校郷土芸能部

観客席に飛び出し、中学生のもとで人形を操る阿波木隅箱廻しを復活する会

「食の祭典」

こだわりの食でおもてなしをコンセプトに開催した「食の祭典」。和知ふれあいセンター駐車場に設けた特設会場では、京丹波の食に対するこだわりや誇りを持った十九団体が出店し、地元産品を使った料理や加工品などで訪れた人たちをもてなしました。

よりすぐりの京丹波産品が集結

会場では、さまざまな特産品を取り扱う道の駅をはじめ、加工グループ、製造・販売業者が一堂に会し、地元産品を使った食品やスイーツ、黒大豆や丹波クリを使った和菓子、ゆずから絞った手作りポン酢、梅干し、地酒、ワインなど、お馴染みの商品を販売。ほかに、震災復興支援として須知高校が福島県相馬農業高校とコラボして生産した「福京・野馬追サラミー」(ソフトサラミーソーセージ)の試食販売や、町商工会青年部による手打ちそばの実演販売、京都学園大学との共援組織「下大久保虹の村づくりの会」による耳うどんなど、多種多様な京丹波産品が集結し、食の魅力がPRしました。



多くの人たちでにぎわう会場



食のキャラクターデザインの塗り絵で楽しむ子どもたち



野馬追サラミーをPRする須知高校生



国民文化祭の記念切手を販売する郵便局のみなさん



こだわりの京丹波産品を販売する出店者のみなさん

売り切れが続出するほどの大盛況

あいにくの雨模様となりましたが、JRの普通電車や当日のみ臨時停車した特急電車、臨時町営バスなどを利用してたくさんの方々が会場に訪れ、ピーク時には各店舗に長蛇の列ができるほどの大盛況。多くの人たちでにぎわいに盛り上がる中、昼ごろには売り切れとなる店舗が続出しました。

また、もてなし茶席や伝統芸能発信コーナーをはじめ、観光情報コーナーでは決定した食のキャラクターデザインの塗り絵体験、社会教育委員が呼びかける福島県双葉町震災復興支援活動「双葉の鶴・支援プロジェクト」など多彩な催しが行われ、会場内には出店者やスタッフの温かい笑顔、訪れた人たちの笑い声が満ち溢れていました。

インタビュー



「食の祭典2011」
実行委員会
委員長
なかにし ひでお
中西 英夫さん

食の祭典を開催したことで、京丹波町に古くから伝わるもの、京丹波町で新しく生まれたもの、それらすべての「食」が一堂に会し、多くの人々にPRすることができて良かったです。

京丹波町には、地域に伝わる産物、歴史的にも文化的にも育まれた土壌の中で培われた食文化が数多くあり、その一端を紹介できたことは大きな成果であったと考えますし、今後に生かせると思います。

祭典に来ていただいたみなさん、大変ありがとうございました。来年度には、京丹波町がどうい土地なのか、どういう歴史があるのかなど、食をキーワードとして知ってもらえるよう取り組みを広げられたらと考えていますし、祭典を契機に京丹波町の食の素晴らしさを感じていただけたらうれしく思います。

3,240人のランナーが秋の丹波路を力走

「2011京都丹波ロードレース」



11月3日、「2011京都丹波ロードレース」(町、船井郡陸上競技協会、町体育協会、丹波自然運動公園主催)が丹波自然運動公園を発着点として開催され、全国各地から集まった3,240人のランナーが、秋色に色付く美しい景色の中を駆け抜けました。

開会あいさつをする大会会長の寺尾豊爾町長。「練習成果を発揮いただくとともに、うまいもの市や催しなどに参加して楽しんでください」と歓迎の言葉を送りました。



勇壮な響きでオープニングを飾る丹波八坂太鼓保存会



選手受付を行う船井青年会議所のメンバー



ランナーから荷物を預かる区長会のみなさん



自己記録が記載された記録証を受け取るランナー



上位6位までに入賞した選手に賞状を手渡す中野委員長

開催に向けた取り組み

秋の一大イベントとして盛り上げていくために、今回から新たに町体育協会が参画し、連携を密にして取り組めるよう二月二十五日に主催者四団体で事務局を設置。三月二十二日には大会実行委員会(中野昭委員長、委員十五人)を組織して開催に向けての協議を本格的にスタートさせ、募集要綱やポスターの作製、参加者募集(七月一日・九月十五日)など、計画的に準備を進めてきました。

大会を支える多くの人々の「力」

大会当日は、主催団体をはじめ、区長会、京都陸上競技協会、南丹警察署、京都中部広域消防組合、船井医師会、京都アマ

チュア無線振興会、明治国際医療大学、和知篠原郵便局、船井青年会議所、須知亀岡・南丹・園部・農芸高校、一般ボランティアなど約五百人の方がスタッフとして大会運営を支えるとともに、沿道では地域のみなさんがランナーに温かい声援を送り大会を盛り上げました。

また、オープニングでは丹波八坂太鼓保存会が勇壮な太鼓を響かせ、公園内の中央広場では「口丹波ふるさと特産展うまいもの市」や「菊花展」の開催、こどもの

うまいもの市 菊花展



特産品や旬の食材を使った料理などが立ち並ぶ「うまいもの市」



色鮮やかな菊の鉢植えを見つめる人たち



社会教育委員が呼びかける「双葉の鶴・支援プロジェクト」に協力する人たち

こどもの広場



周りの景色を楽しみながら広場内を巡回する「ロードトレイン」



起震車の体験や消防服の試着ができる「消防コーナー」

平成24年2月5日(日)は 京丹波町農業委員会委員 一般選挙の投票日です

京丹波町農業委員会委員は、平成24年2月10日で任期満了となるため、
次のとおり「京丹波町農業委員会委員一般選挙」を執行します。

■投票所一覧

選挙区	投票区	投票所	区域
(第1選挙区 丹波地区)	第1投票区	竹野地区基幹集落センター	笹尾、中畑、辻村、中村、下村、鎌倉、西階、水戸、新水戸
	第2投票区	京丹波町健康管理センター	須知、市森、上野、蒲生、蒲生野、曾根、院内、幸野、森、塩田谷、安井
	第3投票区	富田公民館	富田、豊田、上豊田、実勢
	第4投票区	下山小学校体育館	下山、グリーンハイツ
(第2選挙区 瑞穂地区)	第5投票区	山村開発センター	中台、橋爪、和田、井脇、大朴、井尻、八田、小野、長谷
	第6投票区	梅田振興センター	坂井、水原、上大久保、下大久保、鎌谷下、鎌谷中、鎌谷奥、東又
	第7投票区	三ノ宮基幹集落センター	保井谷、粟野、妙楽寺、水呑、三ノ宮、質志、戸津川、猪鼻
	第8投票区	質美振興センター	行仏、中村、庄ノ路、質美和田、質美上野、下村、北久保
(第3選挙区 和知地区)	第9投票区	京丹波町和知共同作業所	中山、升谷、市場、大倉、篠原、大迫、長瀬、塩谷、上乙見、下乙見
	第10投票区	下粟野体育館	西河内、下粟野、細谷、上粟野、仏主
	第11投票区	京丹波町和知支所	本庄、坂原、中、角、広瀬、才原、大簾、広野、出野、稲次、安栖里、小畑

投票日に 予定がある方は「期日前投票」をしてください

投票日に仕事や旅行、レジャー、冠婚葬祭などの理由で投票できない人は、選挙期日前であっても、投票を行うことができます。(期日前投票所では宣誓書の記入が必要です)

- 期間** 2月1日(水)から2月4日(土)まで
- 時間** 午前8時30分から午後8時まで
- 場所** 選挙区ごとに次の場所で投票できます。別の選挙区では投票できませんのでご注意ください。

第1選挙区(丹波地区)
京丹波町役場

第2選挙区(瑞穂地区)
京丹波町瑞穂支所

第3選挙区(和知地区)
京丹波町和知支所

* 町外の滞在先や指定の病院、老人ホームなどでの不在者投票についても同じ期間で行えます。別途手続きが必要となりますので、くわしくは選挙管理委員会までお問い合わせください。

立候補を予定されている方へ

立候補(予定)者を対象とした説明会などを次のとおり行います。

立候補予定者説明会

日時 1月17日(火)
午後1時30分から
場所 京丹波町役場2階議場
※立候補予定者1名につき、1名の出席をお願いします。

立候補届出事前審査

日時 1月24日(火)
午後1時から5時まで
場所 京丹波町役場2階議場

立候補届出日(告示日)

日時 1月31日(火)
午前8時30分から午後5時まで
場所 京丹波町役場2階議場

問い合わせ先 京丹波町選挙管理委員会(総務課) ☎82-3800

告示日

1月31日(火)

投票日時

2月5日(日) 午前7時から午後6時まで

選挙区と
委員定数

第1選挙区
(丹波地区)

10人

第2選挙区
(瑞穂地区)

8人

第3選挙区
(和知地区)

6人

投票できる方

平成23年3月31日に確定した「京丹波町農業委員会委員選挙人名簿」に登録されている方で、京丹波町に住所を有し、平成3年4月1日以前に生まれた次のいずれかに該当している方。

- 10アール以上の農地で耕作業務を営む方
- ①の同居の親族またはその配偶者で、年間おおむね60日以上耕作に従事している方
- 10アール以上の農地で耕作業務を営む農業生産法人の組合員、社員または株主で、年間おおむね60日以上耕作に従事している方

投票するには

投票所の入場券は、投票できる方に対して告示日の翌日(2月1日)から郵送します。投票日当日は入場券を持参し、入場券に記載されている投票所で投票してください。(「投票所一覧」参照)

なお、告示日に立候補者が定数を超えなかった場合、その選挙区は無投票となりますので入場券は送付しません。

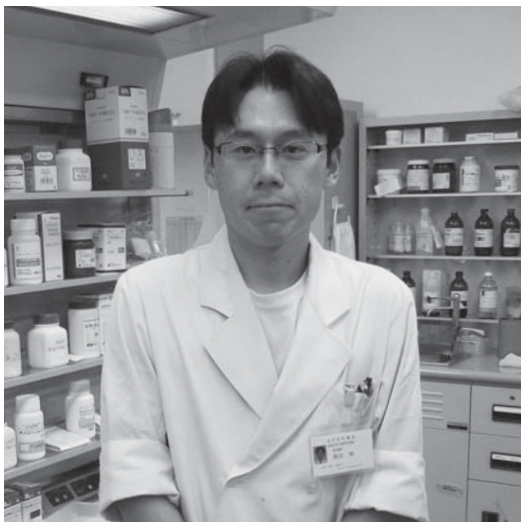
『薬の保管方法について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院長の熊谷明さん。薬の効果を保ち、薬による事故を防ぐための保管方法についてのお話です。

薬の保管方法が悪いと、成分が変質して作用に悪影響を及ぼし、本来の効き目が得られなくなる場合があります。また、保管の不注意が子どもの誤飲事故を招いたりすることもあります。

薬の効果を保ち、薬による事故を防ぐためには、保管方法として次のことに注意してください。

- 直射日光や高温、凍結を避けて保管しましょう。冬の暖房器具や真夏の車の中は要注意。
- 湿気に注意して保管しましょう。粉末や顆粒の薬は水分を吸収すると固まることがあるので、梅雨の季節は要注意。
- ふたのある救急箱などに入れ、子どもの手の届かない所に置きましょう。
- 誤飲を防ぐため、薬と同じ保管場所に農薬や殺虫剤、防虫剤などを入れないようにしましょう。
- 薬の外箱や袋、添付文書は使い切るまで捨てないようにしましょう。



くまがい あきら
薬剤師 熊谷明さん
(京丹波町病院)

適切な方法で薬の保管を

水薬・坐薬・点眼薬の一部、インスリン注射薬(結露を避けるため使用中のペン型は除く)は冷蔵庫で保管する必要があります。薬によって保存方法が異なります。

特に保存方法の指示がある場合は、その指示に従うようにしてください。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
☎ 86-0220

冷蔵庫の過信にご注意を

家庭内で高温・多湿・直射日光の三点を避ける場所というところ、やはり冷蔵庫が一番に思い浮かびます。しかし、冷蔵庫は開閉によって思っている以上に温度が変化するため、薬を出したときに結露し、かえって湿気してしまう場合があります。冷蔵庫に入れるだけでなく、温度の変化に注意してください。

姉妹都市交流のシンボル完成を祝う

■京丹波フレンドパーク除幕式

掲揚台の除幕を行う野口会長ら関係者
(京丹波町ふれあい広場・蒲生野)



京丹波フレンドパークの除幕式が十一月四日、町ふれあい広場で開催され、町国際交流協会会員やオーストラリア・ホークスベリー市からの訪問団員ら約五十人が参加しました。

除幕式では、はじめに同協会の野口久之会長が「フレンドパークを拠点に交流の輪を広げること、より一層、信頼関係と絆を育んでいき

ましよう」とあいさつ。続いて、野口会長や寺尾町長、訪問団のアシュリー・オニール団長らによる掲揚台の除幕、蒲生野中学校吹奏楽部によるお祝い演奏、町のシンボルであるツツジの植樹などが行われ、参加者全員で姉妹都市交流のシンボル完成を盛大に祝いました。

同パークは、姉妹都市交流を記念して平成十五年に曾根地内で設置されたものを、装いを新たに同広場に移設する形で整備。両国の国旗、交流協会旗を掲げる掲揚台などが設けられ、八月二十七日には完成式を開催。今回、国民文化祭に向けて訪問団が来町されたことから、それに合わせて除幕式が行われました。

災害時の被害軽減を 目指して

■上乙見区を対象とした住民避難訓練

上乙見区を対象とした「住民避難訓練(町・町消防団主催)」が十一月十三日に行われ、消防団員や同区民ら約八十人が参加しました。

訓練は、情報伝達体制や要援護者などの避難体制を確認すること、災害時における被害の軽減と住民の防災意識の向上を目的に実施。この日は、集中豪雨により大雨洪水警報が発せられ土砂災害発生危険性が高まったとの想定のもと、はじめに町や消防団が京丹波町和知支所に警戒本部を立ち上げ、上乙見公民館に現地本部を設置。告知放送で避難勧告の発令が伝えられ



上乙見公民館に避難する地域住民
(上乙見地内)

ると、消防団員らは各戸訪問や広報車での巡回などにより避難を呼びかけるとともに、地域住民を上乙見公民館まで誘導。集合した住民は、自家用車や公用車で避難所に指定されている篠原体育館に避難し、緊迫した状況の中で実践さながらの訓練を繰り返していました。

訓練後の意見交換会では、「スムーズに避難ができるよう、できるだけ早く情報を伝えてほしい」などの意見が出されました。

三校が連携してウシの生態を学ぶ

■パートナーズスクール

環境や食について考える「パートナーズスクール事業」の取り組みが十一月十一日、京都大学附属牧場で行われました。

同事業は、瑞穂小学校と須知高校、京都大学が連携する中で、それぞれが持つ知識や技術を生かして

学び合うとともに、食の宝庫である京丹波の魅力を見学することを目指す。三回シリーズで実施。今回は、瑞穂小の五年生四十五人と須知高校食品科学科の二・三年生十三人、京都大学の大学院生八人が参加し、牛舎の見学やウシの胃に生息する微生物の観察をはじめ、実際にウシに触れて生命の尊さを学

んでいました。

その後の講義では、同牧場職員が出産時の映像を使ってウシが生まれるまでの経過を紹介。続いて、大学院生が「ウシは草しか食いませんが、胃の中にある微生物が草を分解して必要な栄養素を作っています」と、ウシと人間の生態の違いなどをわかりやすく説明しました。



牛舎を見学する瑞穂小の児童たち
(京都大学附属牧場・富田)

悪質商法への注意を促す啓発活動

消費者被害見守りパレード

十月三十一日、「消費者被害見守りパレード」(町消費生活グループ和知支部主催)が和知地区内で行われました。

この取り組みは、近年、悪質な消費者被害が多発している現状を踏まえ、被害の未然防止や早期発見、迅速な対応を推進し、安心・安全な消費生活の実現を図ることを目的に、同支部をはじめ関係機関(福祉団体、防犯団体、行政機関)が連携して啓発活動を実施。京丹波町和知支所で行われた出発式では、同支部の野間妙子支部長が「被害者が



啓発チラシを手渡し、消費者被害への注意を呼びかける参加者(和知駅構内・本庄)

出ないよう、がんばって啓発活動をしましょうとあいさつし、その後参加者二十二人が広報車や青色回転灯装着車などに乗り込んで和知地区全域を巡回パレードするとともに、出会った人たちに啓発チラシなどを手渡し被害の未然防止を呼びかけました。

なお、地域の人々が悪質商法の被害者にならないよう、今回から新たに南丹警察署が参画し注意を促しました。

命の尊さと人権の大切さを学ぶ

人権の花運動



協力してスイセンの球根を植える児童たち(竹野小学校・高岡)

法務省と人権擁護委員連合会が主催する「人権の花運動」が、十月二十八日に竹野小学校、十一月二日に瑞穂小学校で行われました。

同運動は、子どもたちが協力して人権の花であるスイセン

を育てることで、助け合いや感謝することの大切さを学ぶとともに、やさしさと思いやりの心を育むことを目的とするもの。竹野小では全校児童四十九人が参加し、人権擁護委員の岡本均さんと原澤淑子さんから命の尊さや人権の大切さについての話を聞いた後、スイセンの球根を植木鉢に一株ずついねいに植え付けました。

関西フィルハーモニー管弦楽団が和知中で公演

次代を担う子どもの文化芸術体験事業



演奏する関西フィルハーモニー管弦楽団(和知中学校・市場)

十月二十五日、文化庁による「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」が和知中学校体育館で開催され、関西フィルハーモニー管弦楽団がオーケストラ公演を行いました。

同事業は、優れた舞台芸術を鑑賞することで、子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図

り、国民の芸術鑑賞能力向上につなげることを目的に実施。公演には、和知中の全校生徒をはじめ地域住民ら約三百五十人が参加し、同楽団が奏でる美しく澄んだ音色に聞き入るとともに、体育館ならではの足元から響く音楽のリズムを楽しんでいました。

公演の最後には、同校女子合唱部がオーケストラの演奏に合わせて「COSMOS」を歌い、会場を沸かせました。

コンクールで地元産品と地元産材をPR

「おいしいお米コンテスト」と「もくもくコンクール」

京都市やJ.A.亀岡・南丹・京丹波の二市一町などで組織する「京都丹波米良食味推進協会」が十一月二十日、J.A.京都農畜産物直売所・たわわ朝霧で開催した第二回京都丹波米おいしいお米コンテストとお米まつりにおいて、「おいしいお米コンテスト」の表彰式を行いました。

同コンテストは、京都丹波米のPRや良食味米の生産

技術向上を図ることを目的に、二市一町の農家などから出品された五十二点を対象に実施。表彰式では、審査講評が述べられた後、関係者から受賞者に表彰状や記念品などが手渡されました。

また、十一月三日には、環境に優しい木材利用を推進し、府内産材の活性化を図ることを目的とした「平成二十三年京都府内産材もくもくコンクール」(南丹・京丹波林業振興実行委員会主催)の表彰式が美山ふるさと祭(南丹市立宮島小学校)で開かれました。

なお、それぞれの受賞者は次のとおり。(町内受賞者のみ、敬称略)

イチョウなど二百十本の苗木を植樹

「みんなで創る水源の森」植樹祭

国連が定める国際森林年を記念する「みんなで創る水源の森」植樹祭(独立行政法人森林総合研究所主催)が十一月九日、実勢地内で行われ、行政や府内外の林業関係者、丹波ひかり小の児童ら約百四十人が参加しました。

この取り組みは、同研究所が水源林造成事業を開始して今年で五十周年を迎えることから、森林の有する多面的機能に触れる場、子どもたちに森林の大切さを伝える場として実施。この日は、参加者代表の寺尾町長らが、本町のシンボルであるイチョウをはじめ、クリやヤマザクラなどの苗木計十本を植樹した後、参加者全員が協力して同研究所で育てられたヒノキのポット苗二百本を植え付けました。



ヒノキの苗木を植える丹波ひかり小の児童(実勢地内)

瑞穂の里さらびきの来場者が二百万人を突破

二百万人突破感謝祭

十一月二十日、グリーンランドみずほ内にある道の駅瑞穂の里さらびきの来場者が、平成十一年四月のオープン以来、二百万人を突破。二百万人目となった大阪府池田市西川純二さんに、グリーンランドみずほ株式会社の畠中源一代表取締役から記念品や花束が贈られました。



畠中代表取締役から記念品を受け取る西川さん(瑞穂の里さらびき・大朴)

同道の駅では、来場者二百万人突破感謝祭として、十一月二十三日に新鮮野菜格安販売イベント、十一月二十六日と二十七日に(財)瑞穂町農業公社の協賛による新そばまつりを実施。特産のハタケシメジのプレゼントをはじめ、豚汁、善哉、つきたてもちが振る舞われたほか、三日間ともにとくさんの屋台が立ち並び、多くの来場者でにぎわいました。

丹波ひかり小の児童が京都縦貫道の工事現場を見学

丹波トンネル工事見学会

丹波ひかり小学校の三年生五十人が十月二十五日、森地内で建設中の京都縦貫自動車道・丹波綾部道路の丹波(第一・第二)トンネルを見学しました。

見学会は、施工している国土交通省福知山河川国道事務所が、地元小学生に工事現場の様子やトンネルの作り方を実際に見て学習してもらう機会として実施。児童らは、工事の概要説明や掘削作業に使われる重機の実演、トンネル内の見学などを通じて、町の発展を目指した開発工事の現状を学んでいました。



トンネル内を見学する児童たち(丹波トンネル・森)

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	8,530,009円
復興支援募金	4,766,759円

*平成23年11月30日現在

わたしたちの町

人口	16,463(-19)
男	7,768(-1)
女	8,695(-18)
世帯数	6,452(-14)
12月1日現在 / ()は前月比	



[シリーズ] **第11回**
食卓の一品に
どうぞ!!

季節の食材を使った お手軽料理レシピ

このコーナーでは、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに掲げ、食生活を通じた健康づくりに取り組んでいる食生活改善推進員協議会のみなさんに、季節の食材を使って簡単に調理できる料理を紹介していただきます。

今回は、煮物やサラダでいただくとてもおいしい「カブ」を使った料理。とろけるような口当たりが楽しめ、季節の具材を加えるとさらにおいしくいただける一品です。

今回の
料理

かぶら蒸し



1日に必要な野菜の量は300～350g。このメニューでは約180gの野菜がとれます。

【材料(4人分)】

- ◆カブ …………… 700g
- ◆えび(小) …………… 8匹
- ◆干しシイタケ …… 10g
- ◆グリーンピース…大さじ1
- ◇だし汁の材料>
- 水……………300ml
- 昆布 …………… 3g
- ◇くずあんの材料>
- 塩…………… 小さじ1/4
- みりん… 小さじ1と1/2
- ◇調味料>
- ◇塩・さとう… 各小さじ1/2
- ◇酒…………… 小さじ1/2
- ◆白身魚(鶏肉)… 100g
- ◆ゆり根…………… 1/2個
- ◆卵……………小2
- ◆ゆず …………… 少々
- かつお節……………3g
- しょうゆ……………大さじ1
- ◇みりん…………… 小さじ2
- ◇片栗粉 ……小さじ2

■作り方

- ①カブは皮付きのまますりおろし、ざるなどに4～5分入れておいて、軽く水気を切る。
- ②白身魚は一口大に切り、えびとともに酒をまぶす。
- ③ゆり根は一枚ずつはがして下ゆでし、シイタケは水で戻してから一口大に切る。また、冷凍のグリーンピースを使う場合は熱湯をかけて解凍する。
- ④すりおろしたカブにほぐした卵を混ぜ合わせ、白身魚、えび、ゆり根、シイタケ、グリーンピースを加えるとともに、塩、砂糖、みりんを入れて軽く混ぜ合わせた後、蒸し茶碗に入れて中火で12～13分蒸す。
- ⑤だし汁にくずあんの材料を入れて煮立たせた後、片栗粉を同量の水で溶き、それを加えてとろみをつける。
- ⑥④にくずあんをかけ、好みでゆずやミツバのをのせる。(カブの葉をゆでてのせても結構です)

■栄養価(1人分)

エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	食物繊維	塩分
152kcal	13.6g	3.2g	72mg	4.2g	2.1g

※白身魚の場合であり、鶏肉の場合は若干変わります。

〈次回は3月号に掲載する予定です〉

月日が経つのは早いもので、平成23年も残すところあとわずかとなりました。広報紙につきましては、皆様のお力添えをいただき、今年も毎月発行することができました。本当にありがとうございました。今後もより一層、身近で親しみやすい広報紙を目指して尽力しますので、ご指導とご支援をよろしく願いいたします。これから寒さ一段と厳しくなりますが、お体をご自愛いただき、良い年をお迎えください。(K)

編集後記

【おわびと訂正】広報京丹波第73号の20ページ、「黄綬褒章」の読み方は「おうじゅほうしょう」の誤りでした。おわびして訂正します。

京丹波町のシンボル

【町の鳥】 うぐいす



【町の木】 イチョウ



【町の花】 つつじ

